

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日	・定時株主総会・期末配当 3月31日 ・中間配当 9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
定時株主総会	6月
公告方法	電子公告の方法により行います。 但し、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL ( <a href="http://www.denka.co.jp/">http://www.denka.co.jp/</a> )
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
上場取引所	東京証券取引所
証券コード	4061

### ■ ゆうちょ銀行口座配当金受取りサービスのご案内

配当金のお受取りにつき、銀行口座に加え、ゆうちょ銀行口座（通常貯金口座）へのお振込みによるお受け取りができますので、ご希望の方は上記株主名簿管理人まで用紙のご請求をお申し出ください。

### ■ 単元未満株式の買取請求・買増請求

単元未満株式（1,000株未満の株式）の買取請求および買増請求は、上記の株主名簿管理人事務取扱所および同取次所で受け付けます。お手続きの詳細につきましては株主名簿管理人までご照会ください。なお、株券保管振替制度をご利用されている場合は、お取引の証券会社等にお申し出ください。

### ■ 諸届出用紙のご請求

住所変更、単元未満株式買取請求・買増請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

0120-87-2031 (24時間受付)

[http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

電気化学工業株式会社  
<http://www.denka.co.jp/>



# DENKA

電気化学工業株式会社

## 株主通信

第149期 中間報告書

平成19年4月1日～平成19年9月30日

特集●くらしの中の当社製品  
「街の中編」





代表取締役社長

川端 世輝

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第149期中間期の当社の概況をご報告するにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当社は、昨年度末に完了したNS-06に連なる一連の業務改革運動により収益力の強化をはかる一方で、有利子負債の圧縮や遊休資産の整理を推し進め、財務体質の改善についても積極的に取り組んでまいりました。その結果、5期連続となる増収増益、1株当たり年8円配当の実施など、ようやく「良い会社」の入り口に立つことができたのではないかと考えております。

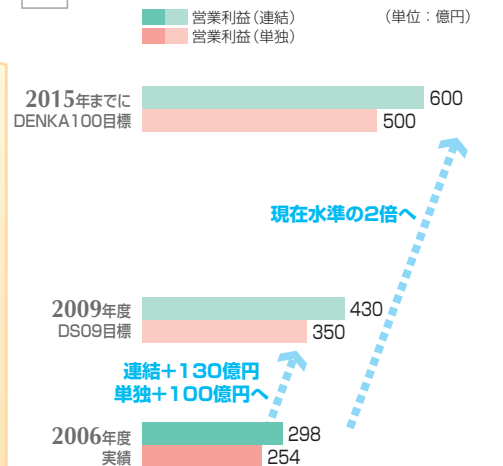
このような流れを絶やさず、さらに良い会社となるために、会社創立100周年を視野に入れた新たな挑戦として、「DENKA100」運動を立案し、“高い技術力で、「資源」から「価値あるモノ」を生み出す企業となる”べく活動を開始いたしました。

このDENKA100で掲げた目標を達成するため、「強い事業をより強く」をキーワードに、クロロプレンゴムなどの既存市場で有利なポジションを占める「基盤事業」と、電子材料

## DENKA100の6本の柱



## DENKA100とDS09の数値(営業利益)目標



関連事業などの大きな伸びが期待される「成長事業」をさらに強化する一方、原材料価格の高騰など外部要因に影響を受けやすい石油化学系の事業などについては、生産プロセスを基本から見直すなどの抜本策により、競争力の維持・強化をはかってまいります。具体的には2009年度までの3ヵ年計画として「DS09」を策定し、始動しております。

また、DENKA100で目指す会社となるためには、単に収益性や財務健全性などの数値的な結果を追い求めるだけでなく、役職員の働き甲斐、社会的責任(CSR)のまっとう、株主のみなさまをはじめ多く

のステークホルダーの信頼の獲得など、多くの強い「基盤」が必要なものと考え、そのための仕組み作りにも取りかかっております。

今後も目標に向かい全役職員が全力をつくす所存でございますので、株主のみなさまにはいっそうのご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

## CONTENTS

株主のみなさまへ	1
特集—くらしの中の当社製品	3
連結財務ハイライト	5
営業の概況(連結)	6
セグメント別概況	7
連結財務諸表	9
個別財務諸表	11
トピックス	13
コーポレートデータ	14

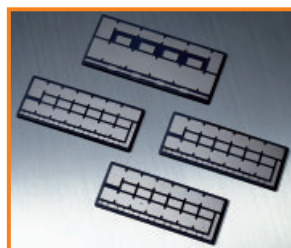
## 街の中の建物や公共交通機関などでも、 当社の製品は幅広く使われています。

みなさまが普段、何気なく利用している街の中のビルや駐車場などの建物、電車やバスなどの公共交通機関にも当社の製品が使われています。今回は、『街の中で使われている当社の製品』をご紹介します。

### 電車（機関部分）

#### デンカANプレート、 デンカSNプレート、 デンカアルシंक

デンカANプレート、デンカSNプレートおよびデンカアルシंकは、高熱伝導性・高信頼性を有し、通勤電車や新幹線、フランスのTGVなどの電車の駆動モーターを制御するパワーモジュールに欠かせない部品となっています。



デンカANプレート



デンカアルシंक

### 自走式立体駐車場

#### デンカパワーCSA

コンクリートのひび割れ発生を少なくするコンクリート用膨張材です。立体駐車場や自動車、電化製品をはじめとする各種製造工場の床など、耐久性が要求されるコンクリート建築物に広く使われています。



### 電車の内装&電車・バスの車体広告

#### DXフィルム

耐候性（色あせせず紫外線などに強い性質）・耐汚染性などに優れるため、電車の内装（次世代新幹線N700系の内装に採用）や電車・バスの車体広告のほか、看板、道路の防音壁の外装などにも使われています。



高速道路の防音壁の外装

### ビル・マンションなどの建築物

#### セメント

当社は、新潟県にある青海工場に隣接する黒姫山から豊富に採れる高品質の石灰石を原料として、ビルやマンションなどの一般的なコンクリート建築物に使われるセメントを提供しています。



### 耐震補強工事用材料

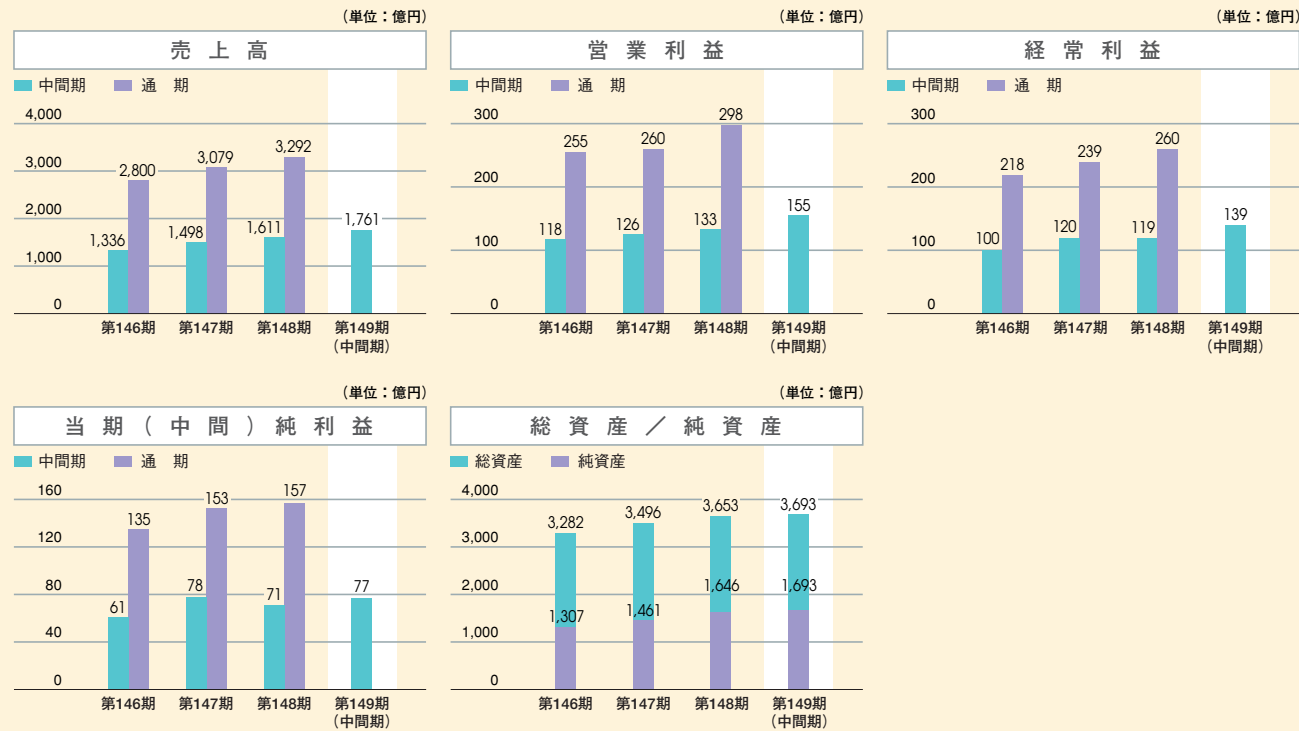
#### デンカタスコ

長期にわたり安定した品質特性と環境耐久性をもつ、施工性に優れたセメント系の充てん材料です。全国の学校、役所およびビル、マンション等で行われている耐震補強工事で、補強用鉄骨と建物の間に充てんする材料として使われています。

# Financial Highlights

# 連結財務ハイライト

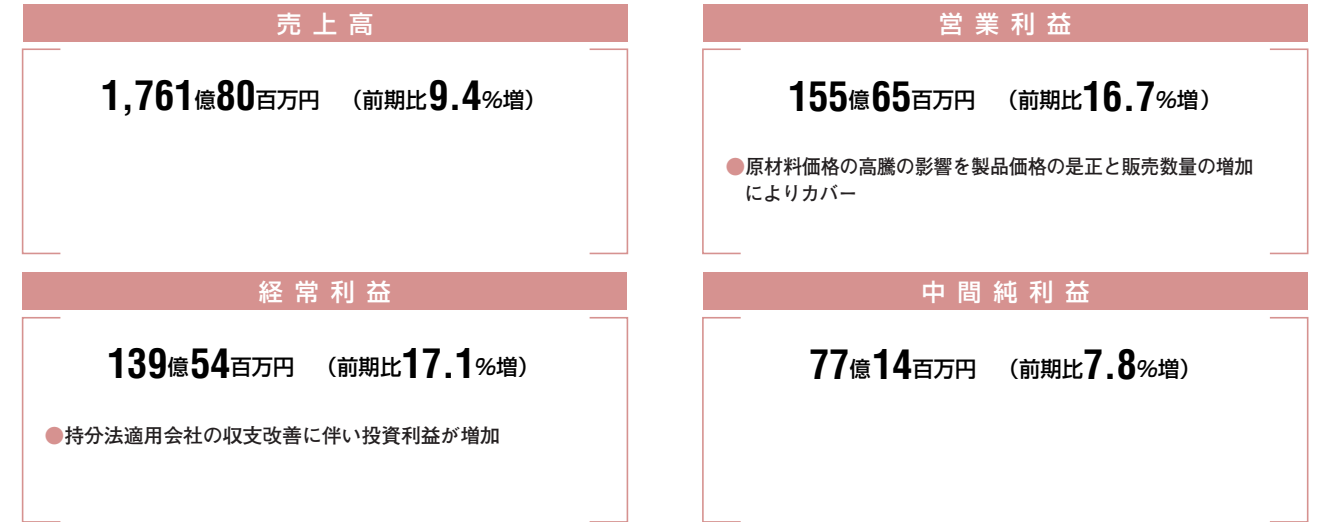
	第146期 平成16年度	第147期 平成17年度	第148期 平成18年度	第148期(前中間期) 平成18年度	第149期(当中間期) 平成19年度
売上高(百万円)	280,033	307,923	329,262	161,108	<b>176,180</b>
営業利益(百万円)	25,585	26,069	29,877	13,342	<b>15,565</b>
経常利益(百万円)	21,897	23,913	26,006	11,917	<b>13,954</b>
当期(中間)純利益(百万円)	13,587	15,365	15,734	7,159	<b>7,714</b>
総資産(百万円)	328,248	349,689	365,301	359,506	<b>369,373</b>
純資産(百万円)	130,715	146,148	164,643	150,681	<b>169,314</b>
自己資本比率(%)	39.82	41.79	43.52	41.91	<b>44.29</b>
1株当たり当期(中間)純利益(円)	27.70	31.08	32.03	14.57	<b>15.71</b>
1株当たり純資産額(円)	265.71	297.23	323.81	306.69	<b>333.31</b>



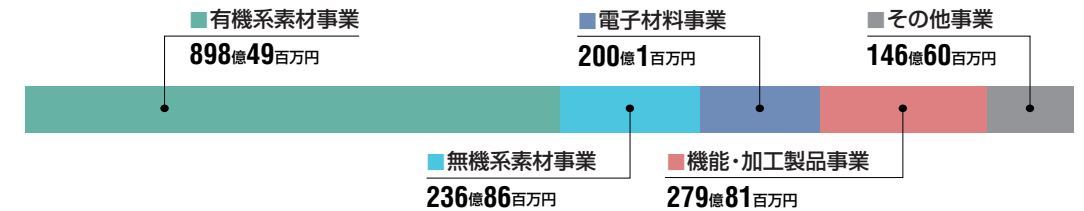
# Outline of Operating Results

# 営業の概況(連結)

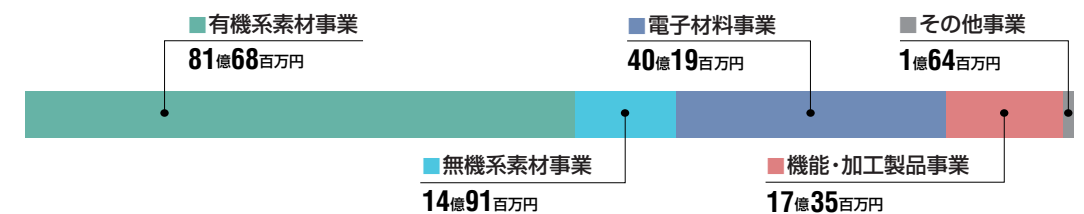
## 業績全般の概況



## セグメント別売上高

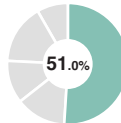


## セグメント別営業利益



## 有機系素材事業

樹脂原料、合成樹脂、酢酸系化成品、合成ゴム等



スチレンモノマーは、輸出版売数量が大幅に増加するとともに原料価格上昇に伴う国内外の販売価格の是正によって増収となりました。シンガポールの子会社デンカシンガポール社のポリスチレン樹脂は製造能力増強により販売数量が増加し増収となりました。AS樹脂・汎用ABS樹脂は輸出を中心に販売数量が増加いたしました。

機能性樹脂では、特殊樹脂“クリアレン”はPETボトル用シュリンクフィルム向けを中心に国内販売数量が増加しました。デンカシンガポール社の透明ポリマーと“クリアレン”の新規設備は昨年度中に稼動を開始しましたが、販売数量は当初計画を下回って推移しました。

酢酸・酢酸ビニルは販売数量が減少しましたが、販売価格の上昇により増収となりました。ポパールは輸出の販売数量が伸びるとともに国内外で販売価格の是正が進み増収となりました。

クロロプレンゴムは、販売数量は前年同期並に推移しましたが、輸出版売価格が上昇し増収となりました。アセチレンブラックは高グレード品を中心に国内外で販売数量を伸ばし増収となりました。

この結果、当事業の売上高は898億49百万円（前中間連結会計期間比153億69百万円の増加、前中間連結会計期間比20.6%増）となりました。



薄型テレビ用ディスプレイに使用される「透明ポリマー」



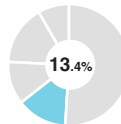
PETボトルのラベルフィルムに使用されている「クリアレン」



クロロプレンゴムが使用された自動車駆動ジョイント部分のブーツ

## 無機系素材事業

肥料・無機化学品、セメント、特殊混和材



石灰窒素や腐植酸苦土肥料“アヅミン”は、販売数量を伸ばすとともに販売価格の是正により増収となりました。アルミナセメントや窒化けい素鉄“ファイアレン”等の耐火物は順調に販売数量を伸ばし増収となりました。

結晶質アルミナ短繊維“デンカアルセン”が電子部品焼成炉用途や自動車用途向けに国内の販売数量を伸ばしました。

公共投資や民間大口工事の減少により、セメントおよび生コンクリート製造販売の子会社各社は販売数量が減少し減収となりました。特殊混和材は、“デンカCSA”の輸出版売数量が増加しましたが、国内販売は総じて厳しい状況でした。

この結果、当事業の売上高は236億86百万円（前中間連結会計期間比6億78百万円の減少、前中間連結会計期間比2.8%減）となりました。



カーバイド



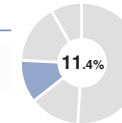
廃棄物受入などでリサイクルにも活躍するセメント工場



グラウト用無収縮材が使用された橋梁

## 電子材料事業

電子部品、電子包材、機能性セラミックス



電子部品では、電子回路基板などの熱対策製品群はIT関連製品や産業用電源および電鉄向けなどで販売数量が増加いたしました。光学レンズ向けなどに紫外線硬化型接着剤“ハードロックOP/UV”が順調に販売数量を伸ばしました。

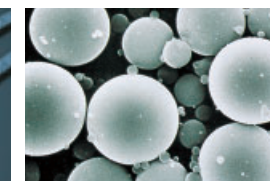
電子包材では、電子部品、半導体のエンボスキャリアテープ用のカバーテープやECシートならびに半導体固定用粘着テープ“エレグリップテープ”等は、順調に販売数量を伸ばし増収となりました。

機能性セラミックスでは、半導体封止材向け球状溶融シリカファイバーは環境対応品を中心に需要が拡大し、販売数量を伸ばしました。また、シンガポールの子会社デンカアドバンテック社の売上高はほぼ前年同期並となりました。デナールシラン株式会社でのモノシラン・ガスは順調に販売数量を伸ばし増収となりました。

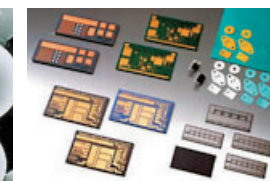
この結果、当事業の売上高は200億1百万円（前中間連結会計期間比12億61百万円の増加、前中間連結会計期間比6.7%増）となりました。



電子部品搬送資材（キャリアテープとカバーテープ）



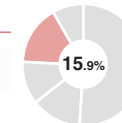
半導体封止材の充填材に使用される溶融シリカファイバー



電子回路基板や放熱シートなど熱対策製品シリーズ

## 機能・加工製品事業

食品包材、建築資材、産業資材、医薬関連



包装資材は、食品包装用のOPS（二軸延伸ポリスチレンシート）原反等は原料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収となりましたが、子会社デンカポリマー株式会社の加工品は価格転嫁が遅れており厳しい状況でした。

建築資材では、プラスチック雨どいや農・土木用途向けのコルゲート管等は販売数量が減少し、減収となりました。産業資材では、合織かつら用原糸“トヨカロン”は販売数量を伸ばし増収となりました。また、工業用テープも輸出を中心に販売数量が増加し増収となりました。

医薬他では、関節機能改善剤（高分子ヒアルロン酸製剤）“スベニール”は、順調に販売数量を伸ばしました。また、デンカ生研株式会社は、麻疹（はしか）の流行による関連検査試薬の需要増ならびにインフルエンザワクチンの出荷増により増収となりました。

この結果、当事業の売上高は279億81百万円（前中間連結会計期間比2億45百万円の増加、前中間連結会計期間比0.9%増）となりました。



OPS成形製品（食品容器）



電気絶縁テープ「ビニテープ」



関節機能改善剤「スベニール」

## 中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別 当中間期 (平成19年9月30日現在)	期別 前 期 (平成19年3月31日現在)	期別 前中間期 (平成18年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	132,517	126,446	127,317
現金・預金	4,085	3,879	6,562
受取手形・売掛金	72,320	66,937	70,774
たな卸資産	46,442	44,555	41,825
その他	9,905	11,285	8,408
貸倒引当金	△ 236	△ 211	△ 253
固定資産	236,855	238,854	232,188
有形固定資産	184,083	184,456	180,738
無形固定資産	2,554	2,901	2,876
投資有価証券	45,654	46,394	43,155
その他	4,788	5,355	5,690
貸倒引当金	△ 224	△ 252	△ 272
資産合計	369,373	365,301	359,506

(単位:百万円)

科目	期別 当中間期 (平成19年9月30日現在)	期別 前 期 (平成19年3月31日現在)	期別 前中間期 (平成18年9月30日現在)
<b>負債の部</b>			
流動負債	149,477	150,914	150,135
支払手形・買掛金	60,459	58,325	57,444
短期借入金	41,503	45,553	44,588
コマーシャルペーパー	2,000	2,000	5,000
1年以内償還社債	10,000	10,000	10,000
その他	35,515	35,035	33,102
固定負債	50,581	49,743	53,191
社債	20,000	20,000	20,000
長期借入金	11,589	12,585	16,378
その他	18,991	17,157	16,813
負債合計	200,059	200,657	203,327
<b>純資産の部</b>			
株主資本	141,680	138,885	132,208
資本金	36,998	36,998	36,998
資本剰余金	41,575	41,563	41,552
利益剰余金	63,763	60,855	54,012
自己株式	△ 658	△ 533	△ 353
評価・換算差額等	21,907	20,103	18,472
少数株主持分	5,727	5,654	5,496
純資産合計	169,314	164,643	156,178
負債及び純資産合計	369,373	365,301	359,506

## 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別 当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	期別 前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
売上高	176,180	161,108
売上原価	136,059	122,901
販売費・一般管理費	24,555	24,865
営業利益	15,565	13,342
営業外収益	1,508	1,161
営業外費用	3,119	2,586
経常利益	13,954	11,917
特別利益	7	—
特別損失	192	—
税金等調整前中間純利益	13,769	11,917
法人税・住民税及び事業税	4,024	4,477
法人税等調整額	1,870	125
少数株主利益	160	155
中間純利益	7,714	7,159

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別 当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	期別 前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,098	9,319
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,624	△ 11,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,281	3,011
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2	6
現金及び現金同等物の増減額	190	829
現金及び現金同等物の期首残高	3,841	5,710
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,032	6,539

## 中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	土 再 差 額	地 価 金	為替換算 調整勘定		
前期末残高	36,998	41,563	60,855	△ 533	138,885	11,403	8,596	103	20,103	5,654	164,643
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△ 2,209		△ 2,209						△ 2,209
中間純利益			7,714		7,714						7,714
自己株式の取得				△ 155	△ 155						△ 155
自己株式の処分		12		30	42						42
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)			△ 2,596		△ 2,596	△ 756	2,596	△ 37	1,803	72	△ 721
中間連結会計期間中の変動額合計	—	12	2,907	△ 124	2,794	△ 756	2,596	△ 37	1,803	72	4,670
当中間期末残高	36,998	41,575	63,763	△ 658	141,680	10,647	11,193	66	21,907	5,727	169,314

中間貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

期別	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)
科目			
<b>資産の部</b>			
流動資産	104,479	98,110	99,854
現金・預金	599	1,452	3,154
受取手形・売掛金	55,805	51,001	55,335
たな卸資産	33,310	32,757	29,798
その他	14,841	12,960	11,651
貸倒引当金	△ 78	△ 62	△ 86
固定資産	211,809	212,615	208,114
有形固定資産	152,295	153,183	152,380
無形固定資産	1,931	2,235	2,538
投資有価証券	29,982	31,490	29,356
関係会社株式	21,429	18,367	18,319
その他	6,383	7,580	5,762
貸倒引当金	△ 212	△ 241	△ 243
資産合計	316,289	310,725	307,968

(単位：百万円)

期別	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前期 (平成19年3月31日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)
科目			
<b>負債の部</b>			
流動負債	125,898	126,845	128,642
買掛金	49,369	46,986	45,051
短期借入金	31,940	33,310	34,075
コマーシャルペーパー	2,000	2,000	5,000
1年以内償還社債	10,000	10,000	10,000
その他	32,588	34,549	34,516
固定負債	45,522	44,682	47,543
社債	20,000	20,000	20,000
長期借入金	7,868	9,073	12,133
その他	17,654	15,609	15,410
負債合計	171,420	171,527	176,185
<b>純資産の部</b>			
株主資本	123,815	120,160	114,025
資本金	36,998	36,998	36,998
資本剰余金	41,575	41,563	41,552
利益剰余金	45,899	42,131	35,828
自己株式	△ 658	△ 533	△ 353
評価・換算差額等	21,052	19,037	17,757
純資産合計	144,868	139,198	131,782
負債及び純資産合計	316,289	310,725	307,968

中間損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

期別	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
科目		
売上高	131,668	121,215
売上原価	98,893	91,053
販売費・一般管理費	18,657	18,990
営業利益	14,117	11,171
営業外収益	2,035	1,669
営業外費用	2,393	1,813
経常利益	13,759	11,027
特別利益	7	—
特別損失	192	—
税引前中間純利益	13,574	11,027
法人税・住民税及び事業税	3,695	4,015
法人税等調整額	1,305	△ 35
中間純利益	8,574	7,047

「中間配当金」のお支払いについて  
配当金計算書または配当金領収証にてご案内のとおり、  
当中間期の中間配当金は、1株につき5円とさせていただきます。  
よろしくお願いいたします。

中間株主資本等変動計算書

当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本								評価・換算差額等			純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	土地 再評価 差額金	評価・ 換算 差額等 合計		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	固定資産 減価積立金	繰越利益 剰余金							利益剰余金 合計
前期末残高	36,998	41,546	17	41,563	3,486	38,644	42,131	△ 533	120,160	10,440	8,596	19,037	139,198
中間会計期間中の変動額													
固定資産減価積立金の取崩					△ 8	8							
剰余金の配当						△ 2,209	△ 2,209		△ 2,209				△ 2,209
中間純利益						8,574	8,574		8,574				8,574
自己株式の取得								△ 155	△ 155				△ 155
自己株式の処分								30	42				42
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)						△ 2,596	△ 2,596		△ 2,596	△ 581	2,596	2,015	△ 581
中間会計期間中の変動額合計	—	—	12	12	△ 8	3,776	3,768	△ 124	3,655	△ 581	2,596	2,015	5,670
当中間期末残高	36,998	41,546	29	41,575	3,478	42,421	45,899	△ 658	123,815	9,858	11,193	21,052	144,868

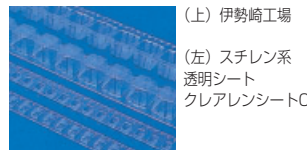
## 伊勢崎工場を当社の直接運営体制に変更

当社の生産子会社であるデンカ化工株式会社では、これまでキャリアテープ用シート等の電子部品搬送用材料やデンカステンシート等の食品包装用材料などの当社製品を製造してきました。

これらの製品の多くは国内シェアトップとなっておりますが、同業他社との競争が激化しており、これらの製品の研究・製造・販売を当社本体と一体化し、さらなる競争力の向上に向けて機動的かつ効率的運営をはかるため、本年10月1日から当社の国内6番目の工場となる「伊勢崎工場」として、当社が直接運営することになりました。



(上) 伊勢崎工場



(左) スチレン系透明シート  
クリアレンシートC

## LED放熱基板製造会社「デンカAGSP」の設立

現在、LED（発光ダイオード）分野では、青色LEDや白色LEDの開発によって光源用途への需要が拡大しています。これは、従来の光源に比べて長寿命・低消費電力などの多くの利点を有しているため、省エネ・環境保全に寄与するものとして注目されています。

今後は、さらに大型液晶ディスプレイのバックライト用光源などのパワーLEDの市場が拡大すると見込まれていますが、パワーLEDの普及には、技術的な課題がまだ残されており、その中のひとつに、放熱対策の課題（出力を上げれば明るさも増すが、発熱量も増加するのでLEDの部品が劣化しやすく寿命も短くなるという問題）があります。

当社は、デンカHITTプレート、放熱シート、デンカANプレートおよびデンカアルシンクなど、電子部品の熱対策部品に関する技術を有しており、これら当社の技術と株式会社ダイワ工業の持つAGSP基板技術とを融合させ、LED放熱基板として好適な新しい基板の開発を目指し、本年6月1日付でデンカAGSP株式会社を設立いたしました。



AGSP基板を構成する銅パッド

## 「DENKA CSR報告書2007」の発行

当社は、本年4月から会社創立100周年に向けた全社運動「DENKA100」を展開し、その諸施策のひとつに「CSR（企業の社会的責任）活動の推進」を掲げるとともに、「CSR推進室」を設置し、本格的に活動を開始しました。

このたび、当社は、このCSR活動の取り組みをまとめた「DENKA CSR報告書2007」を発行いたしました。

この報告書は、従来の「環境・安全報告書」で報告していた「環境・安全」に対する取り組みに加え、当社が考えるすべてのステークホルダーに信頼されるための対象を「社会」「経済」面にも広げ、「内容の充実」をはかるとともに「見やすさ、読みやすさ」を意識して作成しています。

当社は、「いつまでも、信頼される『価値あるモノづくり』企業」を目指して、社会の一員として果たすべき責任、「CSR」をまっとうしていくことが、当社が胸を張って100周年をむかえるための必須条件であると認識し、CSR活動を推進してまいります。

※この「CSR報告書」の詳細は、当社ホームページ（<http://www.denka.co.jp>）に掲載していますので、そちらもご覧ください。

### 会社概要 (平成19年9月30日現在)

設立 大正4年5月1日  
 資本金 369億9,843万6,962円  
 従業員数 連結4,699名 単体2,654名  
 事業所

- 本社  
〒103-8338 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号  
電話 03(5290)5055
- 支店  
大阪、名古屋、福岡、新潟、北陸（富山市）、札幌、東北（仙台市）
- 営業所所在地  
長野市、群馬県高崎市、静岡市、広島市、高松市、秋田市、埼玉県上尾市
- 工場  
青海（新潟県糸魚川市）、大牟田、千葉（千葉県市原市）、渋川、大船（神奈川県鎌倉市）、伊勢崎（10月1日付）
- 研究所  
中央研究所（東京都町田市）、樹脂加工研究センター（10月1日付で伊勢崎工場に編入）

### 海外現地法人

ニューヨーク、デュッセルドルフ、シンガポール、上海、蘇州

### 役員一覧 (平成19年9月30日現在)

#### 取締役および監査役ならびに執行役員

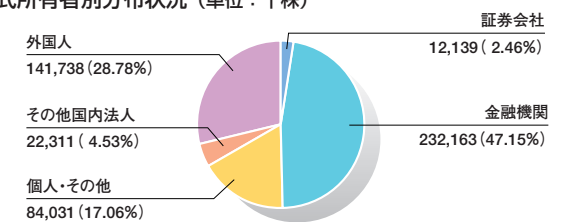
取締役会長	晝間敏男	上席執行役員	吉高紳介
取締役社長	川端世輝	上席執行役員	星守隆
専務取締役	伊藤東	上席執行役員	福田隆晃
専務取締役	三神芳明	執行役員	小林晴男
常務取締役	南井宏二	執行役員	木村秀夫
取締役	虎谷卓	執行役員	大石秀夫
取締役	豊岡重利	執行役員	青柳龍弘
取締役	前田哲郎	執行役員	綾部光邦
上席執行役員	新垣博光	常勤監査役	遠竹行紀
上席執行役員	佐久間信吉	常勤監査役	田中隆康
上席執行役員	武富邦昭	監査役	土亀憲一
上席執行役員	渡辺均	監査役	田中紘三
上席執行役員	小野健一		

### 株式の状況 (平成19年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 1,584,070,000 株
- 発行済株式総数 492,384,440 株
- 株主数 42,245 名
- 大株主

株主名	持株数	出資比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	52,729 千株	10.70 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	45,866	9.31
全国共済農業協同組合連合会	21,965	4.46
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	15,275	3.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	14,794	3.00
三井生命保険株式会社	11,908	2.41
住友信託銀行株式会社（信託B口）	10,951	2.22
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505103	8,969	1.82
三井住友海上火災保険株式会社	6,295	1.27
資産管理サービス信託銀行株式会社（年金特金口）	5,842	1.18

#### ● 株式所有者別分布状況 (単位：千株)



#### ● 株式所有数別分布状況 (単位：名)

